

こらっせ便り

2016年4月18日



【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL : 045-353-9008

Eメール : info@korasseanagawa.org

今年は「交流」を広げます！ 「福島子ども・こらっせ」事務局

3・11が近づくとマスメディアは例年のように被災地の状況を報道しました。今年の主役は檜葉の人々。昨年9月5日に全自治体規模での避難指示が檜葉町で初めて解除され、6ヶ月後の状況がどうなっているのか関心が寄せられたからでしょう。「こらっせ」に来てくれた子どもたちの姿や声が新聞やテレビの画面を通じて流され、私たちはまるで孫の成長した姿を見るような気持ちになりました。



「こらっせ」の活動も5年目を迎え、本来の目的である「移動教室」実現に向けた文科省交渉と同時に、「檜葉グッズ」販売、「こらっせユース」による檜葉の学童保育応援などに活動が広がり、経験を重ねる中で「交流」の大切さを実感するようになりました。檜葉っ子を窓口にして、なんと多くの檜葉のこと、福島とを学んだでしょうか。その一方で、「こらっせ」のプログラムに参加してくれる檜葉っ子の状況もこの5年間で大きく変化しました。檜葉小・中学校に在学者数（檜葉南北小学校の在籍者数は72人）の減少に加え、檜葉中は部活が強く、小規模ながら県大会にいく頑張りを見せているためほとんどの中学生は参加ができなくなりました。

これからも檜葉っ子を見守りながら、福島のことを学び、福島を忘れないというのが私たちの共通した思いですが、現状では「檜葉っ子」の応募人数が減ることが予想されるため対応を話し合いました。幸いにも福島現地の団体・「福島子どもたちを守る保養プロジェクト」の協力を得て、檜葉っ子のみならず集合場所に來れるいわき周辺子どもたちへと募集対象を広げることになりました。また、福島からの避難者を支援している仲間のネットワークを通じ、神奈川に避難している子どもたちも募集します。「こらっせ」のプログラムで、様々な立場におかれている福島子どもたち、神奈川・山北の子どもたち、大学生たち、そして私たち大人の間で「交流」で新たな「生きる力」がでることを願っています。

檜葉町を訪問して

4月15日(金)早朝、金子さんの運転で遠野、小山さんと4人で横浜駅から檜葉町に向かいました。まず、檜葉町のやまゆり荘(デイケアセンター)に到着しました。その後、平成29年4月から本格始動する檜葉小・中学校の校舎の完成した外観を眺めることができました。3つの校舎と体育館は静かな趣で佇んでいました。来年はきっと子供たちの賑やかな声が聞こえることでしょう。

午後はいわき市の仮設の榎葉小・中学校で矢内教育長、秋元北小学校長、新任の鈴木南小学校長、新任の荒木中学校長とお話しすることができました。教育長が校長には福島子ども・こらっせ神奈川のこれまでの活動状況を、私たちには榎葉町における復興状況についてを説明してくださいました。現在、仮設校舎に通学している生徒は小学生・中学生 128 名とのことでした。そのうち 4 名は榎葉町に戻り、榎葉町役場が用意した車でいわき市の仮設の学校に通っているそうです。



やまゆり荘の前で

最後に訪ねたのは 3 月末に「こらっせユース」の皆さんが榎葉町の子どもたちと楽しく過ごした「空の家」でした。社会福祉協議会の松本事務局長は忙しい時間を割いて、とても協力的な話をしてくださいました。午後 3 時 30 分を過ぎて、学校から学童保育の子どもたちが送迎バスに乗って元気に登場しました。現在、小学生 1 年から 6 年生ままで 24 名が通所しています。子どもたちは和気藹々のコミュニティを作っていました。可愛らしい新小学校 1 年生に会うこともできました。これからも健康で元気な子どもたち見続けたいと思います。（工藤 妙子）



完成が近い榎葉小・中学校舎

榎葉町の今とこれから

常磐自動車道の広野インターを降りると、野原に積み上げた黒い除染袋の山が緑のシートに覆われていて、見慣れぬ風景です。帰町したのは、町民の 6%、460 名。年配者が多いと NHK スペシャルでも報道されていました。

デイケアセンターのやまゆり荘では 10 数人が賑やかに談笑。給食施設は人手不足で稼働できていないのが残念とか。集いがあり、人が孤立せず支えあうことが基本ですね。

榎葉町役場の手前の広い敷地に災害公営住宅 123 戸、宅地分譲地を整備中。県立診療所は内科・外科を開始し、歯科医院もオープンしました。役場近くの武ちゃん食堂は、2 年前から作業員さん達にランチを提供。壁には地域ミニ情報が貼られていたので、オーナーの佐藤さんに「こらっせ」の報告書を渡しました。役場の東側に JR 常磐線、竜田駅があり、ダイヤまばらながらも、便利。町内送迎バスも運行しています。少しずつ買い物環境等も良くなるとしても、産業の活性化、雇用の最重要課題が立ちはだかっているでしょう。

高台に新築なった、桜満開の、榎葉中学校へ。ピカピカの校舎に生徒の声が溢れるのは、来年の 4 月まで待たないとなりません。3 棟の低層校舎とカーブの壁の特別教室。立派な体育館また、リニューアルされた武道館も部活のベースとなるでしょう。教育委員会の構想では、小学校、中学校同一校舎で、連携型教育を展開したいということで、体格に差のある小学生に合わせて、階段、トイレ等の改変を加える必要がある様子です。校庭は放射線線量も低く、綺麗に整備されて、この場所が榎葉町の希望の源なのだと、改めて感じます。鮭の遡上する木戸川、のどかな美しいふるさと、家族の寄り添う暮らし、その再生を次世代に託したいと。「こらっせ」の私達も、ささやかですが、子どもたちの応援団であり続けたいと思っています。（小山 千鶴子）

こらっせユースの学童保育報告

ありのままで過ごせるように

「声が大きくなっても構わないから、思いっきり遊びな」空の家の学童保育の指導員さん達は子どもたちに対してこう言うそうです。私は将来小学校の先生を目指していて、小学校や学童保育などの現場に入らせていただくことが多々ありますが、なかなか聞かないフレーズです。楡葉町に住民票があるいわき市に住む子どもたちが集まる空の家の学童保育。いわき市の仮設住宅に住む子ども達は家の中では思いのままに過ごす事は出来ません。だからこそ、空の家では、他の事務所の方々とも協力して、子どもたちがありのままに過ごせるような空間を心がけているのだそうです。



「空の家」近所の公園で子どもたちと

1日目はプチ理科実験教室、2日目は公園遊びを、こらっせユースから提案させていただき、子どもたちと一緒に楽しみました。2日目に公園で遊んだ帰り、ある子どもが、「やっぱりお兄さんお姉さんが来てくれると楽しい」と面と向かって言ってくれました。2日間学童保育でたくさん子どもたちと遊んで、遊んでいる最中は、これだけしかしてあげられないけどいいのかなという迷いもありましたが、振り返ってみて、これこそが、自分たちだからこそ出来ることなのだと自信を持つようになりました。

私は去年の春休みに引き続き2回目の学童保育訪問だったのですが、多くの子どもたちが顔を覚えていて、中には名前もしっかり覚えていてくれる子がいて、とても嬉しかったです。と同時に、1回目の訪問とはまた違う広い見方が出来るようになりました。空の家での学童保育は、楡葉町の小学校の再会に合わせて来年の3月で終了予定ですが、楡葉町に学童保育が移った後も、継続して交流していきたいなと思いました！このような素晴らしい機会を与えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。(岩成 銀河)

子どもたちからパワーを

今回、初めて福島学童保育に参加させていただきました。学童保育の活動場所は空の家という施設で、楡葉町に住民票のある子どもたち約20人が利用しています。子供たちの多くはいわき市内の仮設住宅に住み、様々な小学校に通っています。空の家での活動1日目は学生が企画した理科実験(静電気を利用した実験、水に浮かぶ文字、化学反応で色が変化したり膨らんだりする実験)を行いました。子どもたちは、私達の予想以上の反応をしてくれました。実験中、私達も気づいていなかったような発見や工夫もあり、共に楽しむことができました。また、高学年の子が低学年の子を手助けをする姿も見られ、日頃から学年問わず仲良く過ごしているのだなと感



実験に熱中

しました。実験後や次の日も、理科実験楽しかった！またやりたい！という言葉を受けたことが嬉しかったです。

2日目の午前中は近所の公園に遊びに行きました。学生の提案した遊び(何丁目何番地、石踏み)にとっても興味を示し、何度も行う姿が印象的でした。公園へ行く途中、仮設住宅地を歩いていくのですが、子ども達が「ここが私の地区」「〇〇君のお家だ」「公園へ来るのは久々で、普段家の周りには遊ぶ場所がないから学童に来ているんだ。」と話していました。その話を聞き、子ども達が自由に遊べる環境が戻っていないこと、5年経った今でも仮設住宅に住むことを余儀なくされている人々が大勢いることを実感しました。

メディアを通してではなく、現地に行って感じることで知ることが多くありました。自分の中での震災への意識が今回の訪問により変化したと思います。その中でも、笑顔で、時間を忘れ夢中で楽しむ姿、終始明るく、体力の限界を知らないかのように走り回る子供達の姿が見られ、たくさんのパワーをもらった2日間でした。夏期のプログラムと同様に、学童保育ボランティアも長く関わっていただける活動にしていきたいです。最後に空の家訪問の機会を与えてくださった関係者の方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。(梅津 彩)



うまくいかな

理科実験を楽しみました

私は初めて学童に参加しました。一日目は昼食をとるところから子どもたちと一緒に活動したのですが、私は小学一年生の女の子と二人で食べました。バランスのとれた手作り弁当で、保護者の方の愛情を感じていました！子どもたちは皆、見た限りお弁当を持って来ており、忙しくてもお弁当を持たせられるようにしているのだろうなと思いました。そのあとの自由時間中に私たちは科学実験の準備を進めていたのですが、

「なにやるの?」と興味深そうに聞きながらお手伝いもしてくれて、助けられました。講座の方ですが、想像以上の反応のよさで、私も一緒になって楽しむことができました。静電気をういたスズランテープを浮かす実験では、

小1の子供の方が私よりもずっと上手で、驚きました。二つ目は水面に文字を浮かすというものでしたが、初めからやり方を教えるのではなく、自分たちでチャレンジする時間も用意していましたが、少し苦戦しているようでした。できるようになってからは思い思いの絵を描いて楽しんでくれていたのでよかったです。いちばん盛り上がったのは、三つ目のねるねるねるねを作るもの(酸とアルカリの実験)だったかなと個人的に思います。膨らむにつれて驚く子や笑い出す子、もっとふくらませてやる！と張り切る子、一つの実験でたくさんの表情が見られました。

二日目は、公園に行きました。空の家の方とお話する中で「普段は公園にも連れて行ってあげられない」という言葉が一番印象に残っています。小学生にはもっと走り回ってほしいと思いますが、安全管理の都合上、通常の人数(働いている方々の)では厳しいようです。私たちが行くことによって、大きなことがなされるわけではありませんが、一緒になって走ったり、考えたりすることも子どもたちにとっては嬉しいことなのかなと今回感じました。みんなで一緒に何かをする、そういった機会も設けられたのかなと思っています。次回参加させていただくときは、今回よりたくさんレクリエーションを考えて楽しんでもらえるようにしたいですし、私自身も、もう少し知識を増やしておきたいと思っています。とても良い経験ができました。ありがとうございました。(松田 優希)